

第5回報告書

修士過程修了とPhDの始まり

近藤耕太

Massachusetts Institute of Technology (MIT) AeroAstro
マサチューセッツ工科大学 航空宇宙

1. 研究

去年から行なっているBoeingと共同研究の成果が少し出てきました。1月にはMITに来てから初めての論文がIEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA23)へ採択されました。そして、これを発展させIEEE RA-Lにジャーナルとして投稿しました。

また、MIT Newsに取材を受け、MITのホームページトップとMIT Newsにて研究が取り上げられました。以下がリンクになります。

<https://news.mit.edu/2023/new-algorithm-keeps-drones-colliding-midair-032>

MIT Newsの広報力は大変大きく、分野内の色々な方から研究内容に関する問い合わせをいただきました。研究内容をYouTubeに動画を投稿したのでぜひ見てください。

<https://youtu.be/i1d8di2Nrbs>

また、ICRA23では二つのワークショップに論文が採択され、それぞれで研究発表をし、**Communication Challenges in Multi-Robot Systems: Perception, Coordination, and Learning**では最優秀ポスター賞を受賞することができました。



Announcement of the **Best Poster Award**:
Robust MADER: Decentralized Multiagent
Trajectory Planner Robust to Communication
Delay in Dynamic Environments (MIT). Authors:
Kota Kondo, Reinaldo Figueroa, Juan Rached,
Jesus Tordesillas, Parker C. Lusk, and Jonathan
P. How. Congratulations!

ICRA23での研究発表と最優秀ポスター賞の受賞

また、ドローンの複数機制御に関して修士時代に取り組んだ内容で論文を提出し、二年間の修士課程を修了しました。引き続きMITのACLでPhDに進むので今後も頑張っていきたいと思っております。

2. 授業

現在は16.337を受講しました。JuliaをベースにしたMachine Learningの授業でかなりコンピューターサイエンスヘビーな内容でしたが、計算高速化という点で大変興味深い内容でした。

3. 私生活

修士課程を共に修了した親友たちとロンドン開催だったICRA23参加後にヨーロッパを旅行してきました。ロンドン、パリ、ベルリン、チューリッヒを約2週間かけて周ってきました。パリからベルリンにかけては宿泊費と移動費を節約するために夜行列車に乗ったのですが、車両がかなり混んでいたため、荷物を全てとなりの車両に載せ眠りにつきました。翌朝ベルリンで目覚め、隣の車両に行こうとするとドアが開かず不思議に思い車両を降りると、荷物を載せた車両がすっかりなくなっていました。。。駅員さんに話を聞くと夜中にその車両は切り離されてプラハに行ってしまったとのことで、ベルリンで全てを失ってしまうという(面白いですが)大変困った状況になってしまいました。その後プラハの駅に問い合わせをして、数日後に荷物が見つかったという連絡が来たので、スイスに行く途中にプラハに立ち寄り、荷物を回収しました。そのほかにも色々トラブル続きだったのですが、困った状況でも笑い飛ばせる親友たちと共になんとか初のヨーロッパ旅行を楽しむことができました。

過去二年間を振り返って、MITでできた親友たちは本当にかげがえのなく、僕の二年間を(下手をすれば研究でモノクロになりがちな大学院生活を)本当に鮮やかなものにしてくれました。本当に感謝しきれません。



スイス、マッターホルンにて